

不安な気持ちを和らげる接客を

自動車の販売や修理を行う日光モーター（和久里）。訪れる人に最初に声を掛けるのが、河嶋さんです。河嶋さんは、県外の大学を卒業後、小浜に戻り入社。車の不具合など、来店者のさまざまな要望を整備士に引き継ぐサービスフロントとして、2年8カ月勤めています。

河嶋さんは整備士に引き継ぐ前に、「車のどこに異常があるのかをお客さまに尋ねます。話してもらったことで、不安に思っている気持ちを和らげてもらえれば」と心掛を語ります。



勤務先 株式会社日光モーター 小浜店
かわしま はるな
河嶋 春奈 さん
(24歳・青井)

普段の接客について、「大学生の時に飲食店で接客のアルバイトをした経験が役立っています」とほほえむ河嶋さん。気を付けていることを尋ねると、「初対面の際は印象が大切。簡単なことは答えられるようにしてお客さまに不信感を与えないようにしています。良い印象を持ち帰ってもらいたい」と話します。

休日には、嶺南の飲食店巡りを楽しむ河嶋さん。「最近、市内で海鮮丼を食べたらおいしかった。また行きたい」と笑顔を見せてくれました。

課題を決めて目標に向かう

小浜第二中学校男子バレーボール部は、1・2年生合わせて13人で活動しています。体育館の一角で練習する部員らは、時には笑顔を見せて熱心にボールを打ち合っています。

キャプテンの林くんは、中学校の体験入部で、対戦相手への攻撃手段となるスパイクやサーブを打つ楽しさに触れ、入部を決めました。

8月末に新体制になり3カ月。自らのことを、「キャプテンとして、声を出してチームをまとめられるようになり、成長しました」と話す林くん。

顧問の古田先生も、「試合中や練習中にチームの良い雰囲気をつくらうと、全員に声をかけてがんばっています」と林くんを評価します。

今後の部の目標は、県大会に出場して1回戦を勝ち抜くこと。そのために、「レシーブの練習に取り組む』『自分に何ができるか考えて動く』など、部で課題を設定し、練習に励んでいます。また、部活動以外でも「バレー部のあいさつがいいねと言われるようにもなりたいです」と技術以外の向上にも意欲を見せていました。



男子バレーボール部 キャプテン
はやし そら
林 蒼空 くん
(小浜第二中学校2年生)

人々の交流を生み未来の基盤に

来春に開業100周年を迎えるJR加斗駅（上加斗）。松葉さんは、加斗地区夢づくり協議会の部会長として、記念事業の企画運営に取り組んでいます。

来年4月開催の記念イベントでは、100年前から現在までの写真を集め、公民館から駅までの道を花とともに彩るなど、さまざまな企画を予定。

松葉さんは準備に奔走しつつも、「部会員を中心に、地区民から多彩な提案が寄せられ、地域が一丸となって地元駅の『100歳』を祝おうという雰囲気がある」と、うれしそうにほほえみます。

「この取り組みをきっかけに、コロナ禍で失われつつあった交流や活気が戻ればうれしい」という松葉さん。「これからの100年も住み続けられる地域の基盤づくりのために、多くの人や世代の交流を生み出したい」と、意気込みを語ってくれました。

同協議会では、過去の写真などを募集中。「駅や電車に限らず、往時の加斗や住民の様子がかがえる資料をお持ちの方は、ぜひ、加斗公民館 ☎52・5136までご連絡ください」



加斗駅 100周年記念事業 部会長
まつば ひろき
松葉 洋記 さん
(50歳・東勢)

学年の垣根なくしていきたい

教室に多彩な楽器の音を響かせる若狭高校軽音楽部。文化祭など学内の催しのほか、地域の音楽イベントなどにも精力的に参加しています。

部長の澁谷さんは、小学1年生からピアノを習い始め、高校からは同部でギターに挑戦。軽音楽の楽しさを、「初めはうまくかみ合わなかった個々の演奏が、練習を重ねて一つになった時の一体感」だと語ります。

同部は、部員32人が所属する、学内一の大所帯。それだけに「仲の良い部員だけで固まりがちになるし、お互いの知らないところで不満も出る」と言う澁谷さん。改善のため、「月1回のミーティングで楽器ごとの不満や要望を出してもらい、少しでも意見をくみ上げられるようにしています」

今後の目標について、「学年の垣根なく、気軽に何でも話せる部になりたい」と語る澁谷さん。12月に若狭図書学習センター（南川町）で開くクリスマスライブに向けて、「特に1年生とは、部活以外でも遊ぶくらい、もっと仲良くなりたいですね」と、笑顔で話してくれました。



軽音楽部 部長
しぶたに みほ
澁谷 実穂 さん
(若狭高校2年生)